

卒業生からのメッセージ

社会に出て3ヶ月

編集委員会
Editorial Board

九州産業大学 情報科学会誌
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
editor@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/>

1. はじめに

九州産業大学情報科学部は、平成14年4月の開設以来4年を経過し、平成18年3月に初めての卒業生を出すことができました。

特に第1期生の皆さんは、先輩がいない中で手探りの就職活動を進め、どんな仕事が待っているかも判らずに飛び込んでいったでしょう。

また、情報産業ではどうしても東京が中心です。九州、特に福岡の勤務を志望していた人も多いと思います。

今回は東京を中心に情報産業に勤務している人たちの現在の心境を書いて貰いました。在校生の皆さんの今後の生活設計に少しでも役立てば幸いです。

書いて戴いた皆さんは（順不同）

- 荒木浩一
- 重松大貴
- 楯岡裕幸
- 谷口悠介
- 中尾由貴
- 野田誠二
- 森芳範

の7名です。執筆者の皆さんありがとうございました。

2. 卒業生 A さん

就職して3ヶ月が経ちました。近況を報告したいと思います。私は某・インターネットサービスプロバイダに就職しました。現在の勤務地は東京です。自宅は会社の寮に住んでいます。東京での生活については、最初から不安はありませんでした。(大学時代も実家を離れて一人暮らしをしていたので。)

東京に来て良かったと思うことは、お店などモノがたくさんあることです。都会ですので休日は楽しめます。仕事の面では、最先端の技術を知る機会は東京の方が多いのではないかと感じています。

入社してみて感じたことは、日本全国のいろんな大学から新人が来ているということ。私の会社は出身大学で評価するような会社ではありません。学歴よりも本人の

キャラクターを見てくれる会社だと思っています。周りには有名な大学出身の同期もいますが、「あいつは大学出身だから・・・。」というような話題になることは一切ありません。どこの大学出身でも関係ありません。

重要なのは、

- 自分は何が好きなのか
- 自分は何をしたいのか
- 自分はどんな人間になりたいのか

ということを熱く語れることだと思います。もちろん、それらが会社にとってどのようにプラスになるのかも大切です。

私は情報科学部の第1期生でした。先輩もいないため自分たちで考えて動かなければならないことがたくさんありました。特に卒業研究など研究室に関することは自分たちで考える必要がありました。

その中でも、研究室でのサーバのインストールや設定の経験は役に立っていると感じています。「インストールする、設定する」という作業そのものが役に立っているわけではありません。疑問点を自分で調べたり、人に聞いたり、試した経験が役に立っています。そして、自分から動ける人は、どこに行っても大丈夫だと思います。

あとは、人間関係には気をつけましょう。大学時代は人間関係を選べます。嫌いな人には近づかない、好きな者同士で集まるといえることができると思います。社会に出たら人間関係は選べません。今、自分の居る環境で生活していかなければなりません。

会社に入ったら「研修」はありますが、そこですべてを教えてはくれません。あとは現場で自分自身で考えて動かなければなりません。わからないことがあったら、自分で調べたり、人に質問することで解決しなければなりません。わからないことをそのままにしていたら、自分自身に跳ね返ってきて痛い目に遭います。ここで言う「痛い目」というのは、学生時代は「試験ができなかった。単位が取れなかった。」など個人の範囲で済みます。しかし、仕事では自分だけでなく会社全体に迷惑がかかるということを実感しています。

それでは、学生の皆さんはしっかりと単位を取りつつ、大学生活を楽しんでください。

3. 卒業生 B さん

・私の近況 ~自分なりの学び方を覚えよう~

関東に来てから数えて四ヶ月程経過しました。まずは私の近況を報告させて頂きたいと思います。私はとある総合通信業に就職しました。新人研修も6月で終了して、正式に配属が決定しました。現在は配属先の元で色々な仕事を覚える段階に入っています。

今のところ職場は東京で、現在は会社の寮に入っています。今年入社の同期も多く、また寮長さんや寮母さんも懇意にしてくださいるので特に不安を感じることもなく生活することが出来ています。共同生活を嫌がる人もいるかもしれませんが、知り合いを増やすという点ではこれ以上無いと思います。

東京に来て良かったと思えることは、環境の変化だと思います。私は生まれも育ちも九州でしたので、見知らぬ土地での再スタートという点ではこういった環境の変化は良いと思います。休日になれば色々な店に行き楽しめる…というわけでもないのですけどね。(寮が東京ではないので…東京に寮がある人はすごく楽しめるのかもしれませんが。) また技術的な話においては関東に勝るものは無いと思います。展示会やセミナーが盛んで、最新の情報を得ることが出来ます。自分を成長させたいという志さえあれば、これ以上の刺激に溢れた場所は無いのかもしれませんが。ただし、自分を見失わないことが大前提ですが。

次に入社して感じたことですが、大学の出身なんて関係無いということでしょうか。大学の出身で区別するのではなく、本人に対して評価をしているということです。現状の能力というものは、大学の良し悪しなんていう下らないものではなく、大学に在る間にどれだけ頑張れたかというものです。といっても、大学で学んだ事が会社で生かせるわけでは無いのです。大学で学んだことは大学までである事を意識させられます。あくまで大学という与えられた環境でどれだけ頑張ったのか、その点を評価されているのです。それすらも入社時点での無いものとなるわけですし、入社してから自分なりにどうするかを考えることが重要だと思います。実際、現状でも私は劣っているとか優れているとか意識しません。同期同士では足りない部分を補い合って互いに高め合っていると云えます。足りないものがあるのは当たり前ですが、自分なりの何かがあるということも事実です。優劣をもし考えるならば、自分の優とは何かを考えるのも良いかもしれませんね。

大学時代で身に付けておくべきこと、それは『コミュニケーション能力』と『学び方』だと思います。大学時代は人間関係を選ぶことが出来ます。嫌いな人、気に入らない人には近づかない、好きな者同士や自分にとって都合の良いもの同士で集まるといことが享受された環境

です。しかしながら社会に出ると人間関係は選ぶことは出来ません。どんなに嫌な人であっても円滑にコミュニケーションを取ることが必要となるのです。自分に取って都合の良いことだけを考えるのではなく、自分を抑えて相手を尊重することが必要となります。そもそもコミュニケーション能力自体、大学生であるならば欠如してはいけないものだと思います。

学び方に関しては『受動的』から『能動的』に変化させるということです。つまり、自分から色々な事を学ぶということです。受動的であるということは、単純に言うならば何も考えずにいても教員などが教えることを覚えるだけです。しかしながらそれではそこには自分の意思というものが存在しえませんが、『学ぶ』という点においても最低限のものです。考えなしに学ぶということは、無駄の無駄が多すぎます。これで良いのは高校生まででしょう。能動的に学ぶということは、自分の意思が存在しえます。何故なら学びたい事を学ぶからです。目標を持って学ぶことにおいては無駄は必要の無駄でありますし、その経験が次へとつながります。たとえ其処で学んだことが会社に入って使う機会が無かったとしても、能動的に学んだ結果におけるその学習方法は会社に入っても十分通用しえるものだと考えるからです。では、自分なりの能動的であるために最低限必要な事柄について挙げたいと思います。

- (1) 疑問を持つこと
- (2) 自分なりの考えを持つこと
- (3) 反論すること

(1) 疑問を持つこと、疑問を探すことは能動的であることの根底であるかもしれませんが。まずは教えられる所から探す疑問から、自分で見つける疑問を探すことが大切です。疑問を探すということは、疑問でない部分についても学ぶことにもなりますので結果として自分の底上げになるのではないかと思います。

(2) 自分なりの考えを持つことは、言うなれば思考停止をしないということです。問題にぶつかった時、答えを聞くことは悪いことではないのですが、自分なりの考えを持たずに聞いてしまうと、其処で思考が停止してしまいます。それでは、果たして次に同じような問題にぶつかった時に自分で解決できるかどうか？ということにもなります。正しい、正しくないは別として自分なりの考えを持った上で答えを聞くのならば、考え方の精度を高めることにもなります。自分なりの考えを持つことは自己を確立するという意味でも大切です。会社に自分の考えが無いことはいる意味すら危うくなりかねませんので。

(3) 反論することは導き出した自分の考えに反論することです。もし、反論することが出来るのならその考えはまだ熟考することが出来るということでもありますし、多面的に物事を捉えるという意味でも非常に重要であると思います。これは自分の考えだけに当てはまることではなく、色々な事象に言えることでもあります。反

論するということは、反論される側以上に考える必要がありますからね。ただ、当然ながら反論には根拠が必要ですけどね。根拠の無い反論は無意味ですから。

仕事とはわかることをやることよりも、わからないことをやるのが大半です。そういう意味でも小さなコミュニティである研究室での生活が非常に重要であると思います。研究を行うということは先ほど挙げたものが全て集約されますし、小さな社会であるとも言えます。与えられた環境で適切な問題を探し、調査、発表するわけですが、これはまさに社会に出ても同じことだと思います。その小さな社会のなかでコミュニケーション能力が欠如していたり、能動的に学ぶことが出来ないのならばそれは社会に出ても不適合である可能性があります。今皆さんが頑張れることは3年、4年で研究室に配属されたときに自分の立ち位置を早く見つけて頑張ることではないかと思います。

4. 卒業生 C さん

高校生の時にパソコンを初めて触って以来情報技術者を目指し、現在念願かなって丸3ヶ月が経過しました。今はまだ研修中ですが、そんな中で痛切に感じるのはもっと勉強をしていれば良かったという事です。今まで勉強してきたつもりでしたが、実際社会に出てみるとやはり知識不足なのは否めません。大学の同級生達も皆様に同じ事を言っており、毎日寝る間を惜しんで勉強をしているそうです。私も例に漏れず、自分の知識不足を補うために日々テキストやモニタと睨み合いする毎日を送っています。

もっと勉強をしていれば良かったという後悔の中で特に私が思うのは、資格取得に力を入れるべきであったという事です。実務をしていくとクライアントの要望で、ある資格を持っている人限定というものがあります。資格とは誰もが理解できる本人の証明であり、また、それを取るという明確な目標が立てられることから効率的な勉強方法であると思います。現在の私が後輩達に勧めるのはまず資格取得と断言します。

しかし、情報科学部で学んだことが全く無駄になっているかということはありません。むしろ大学で学んだことは私に自信を与えました。入社後、同僚の顔ぶれを見てみると誰もが知っている有名大学の出身者などが多数おり、4月の私には不安しかありませんでした。「やっていけるのだろうか」「ついていけるのだろうか」。しかし実際に研修が始まってみるとクラス分けテストの結果で決められたクラスは一番上で、研修の内容もほとんどが今まで自分が大学で学んできた知識に上乘せするという形でした。そのために理解がしやすく、同僚達に説明を頼まれる事もあります。それはひとえに基礎をきちんと学ぶという情報科学部の教育方針の賜物であると思います。知識の基礎ができている場合は上に積み上げ

ることが容易であり、また本当の意味での理解にもつながっています。

エンジニアが IT 環境を構築しようとした場合、上辺の知恵だけでは絶対にシステムが破綻します。そういった部分に基礎を理解することの重要性があります。しかし机上の知識だけを持っていても仕事ができないこともまた事実です。知識と経験、その2つが無ければエンジニアは業務が遂行できません。知識は1人で学ぶことができても、経験は仕事を頂かなければ積む事ができません。学生の頃より話には聞いていましたが、この分野での仕事というのは全国的に見てもほとんどが首都圏に集中しています。夢であった情報技術者、首都圏はそのプロになるための効率的な道でしょう。

大学を卒業して3ヶ月、まだまだ使い物になるとは言えない状態ですが、自分の成長を日々感じる事のできる毎日です。4年間情報科学部で学んだからこそ得た自信をばねに、情報社会の礎として精進していきたいと思えます。

5. 卒業生 D さん

私は現在、東京のネットワーク構築企業で働いています。まだ配属されたばかりで大した業務はやっていませんが充実した毎日を送っています。先輩が教えて下さることも専門的な事ばかりで多少困惑することもあります。研修中に取得した CCNA という資格のおかげで何とか理解しています。実は研修が2ヶ月間あって3つの資格に挑戦しました。ネットワークの知識がほとんど無かった私にとってこの2ヶ月は大変な日々でした。ネットワークの企業に就職すると分かっていたのに、何でもっと勉強しておかなかったのだらうと後悔しました。就職活動が終わってからの数ヶ月間に資格の勉強をしておけばよかったと、何度も何度も思いました。しかし、苦戦していたのは私だけではなく、某有名大学出身者の人達も研修中は頭を抱えていました。その時、大学としての差はあまり無いのだと実感しました。

就職活動をする際、正直言うと九州内での就職を希望していました。しかしこの業界で地方だけに絞ってしまうと該当する企業数が少なく非常に厳しくなっています。また、関東に出てくる事によって地方では触れにくい先端技術を味わうことができると思います。それに関東といっても地方出身者が多いので、様々な地方の人と触れ合う事ができ新たな発見でいっぱいです。余程の理由が無い限り、関東に来て先端技術に触れてみる方がいいと思います。

現在私の周りの同期で、体調を崩している人が何人かいます。社会人の生活とは大学時代の緩やかな生活とは大きく異なっているため体調が不安定になりやすいと思います。私は通勤に電車を使っているのですが、満員電車は相当大変です。福岡の満員電車とは規模が違い、身

動きが全く取れない事は日常茶飯事です。仕事前と仕事後の 2 回も 1 日に経験するので新入社員には苦痛だと思えます。何が言いたいかというと、体力も必要だということ。技術的な知識や経験も必要ですが、規則正しい生活を送り体力も十分つけておく必要もあると思えます。せめて入社 3 ヶ月前くらいから早寝早起きを心掛け、適度に運動するなどして入社準備を整えておくことが大事だと思いました。

最後に、私が今請け負っている仕事をおおまかに紹介します。ある企業様のネットワーク機器であるスイッチの入れ替え作業を行っています。これは機器が古くなってきたので新しいスイッチに交換するという作業で一見単純そうですが交換する為には、そのネットワークをきちんと理解しておく必要があり、作業中はネットワークが停止するので意外に大変な作業です。私の部署は保守担当なので、主にトラブルの対応や今回のような予防交換を主に行っています。お客様と直接触れ合うことが出来るので、人との出会いが非常に楽しみです。今後の目標は、1 日でも早く仕事を覚え、多くの会社の方との繋がりを持ってバリバリ頑張っていくことです。

6. 卒業生 E さん

私は今年の 3 月に本学を卒業して、業務用ハード、ソフト製造企業に勤めています。一般的には有名な企業ではありませんが、納得して入社したので忙しいながらも充実した日々を送っています。最近是比较的落ち着いてきましたが、入社した頃はお金を払っている学生とお金をもらっている社会人という絶対的な現実に対する意識の違いや周囲の対応に戸惑いました。

入社して 4 月から 6 月まで全国様々なところから集まった同期と研修を受けていました。そこで感じたことは、情報科学部を卒業した者としては本学で組まれているカリキュラムで得られるものを自分のものにできれば、決して他大学出身には劣っていないということです。もちろん私自身が学んだ全てを会得しているわけではありませんが、日々業務をこなす中で様々な知識 (私の場合は特に JAVA とネットワークとハードウェア) が大いに生かされています。

逆に、もっと勉強しておくべきだったと思う分野が外国語 (特に英語) です。なぜなら、現在の動向として、ある程度大きい企業は何かしら海外に事業を展開しています。そして、意思があればすぐに海外に行かせてもらえます。となると外国語は欠かせません。実際に、同期の中に TOEIC800 点台がいました。社会人になると自由な時間が極端に少なくなるので今のうちにやっておくことをお勧めします。

それと入社して、技術系の職種の上司に良く聞かれることが大学で何やってきた? ということです。将来やりたいことが明確に見えている人はそれを他人に理解して

もらえるようにしておくべきです。自信を持って伝えることができれば、こいつはその分野は使えそうだからやらせてみるかと思わせることができ、やりたい分野に就くことができやすいからです。そのためにも卒業研究はしっかりやっておくべきです。必ず後の自分のためになります。実際に私自身ももっとやっておけばよかったと思っています。

もう就職活動、卒業研究をがんばっている方、まだまだ時間がある方もいらっしゃるでしょうが、何かの参考になれば幸いです。

7. 卒業生 F さん

就職して、約 3 ヶ月が過ぎますがとても充実しています。今の仕事は就職活動中に希望していた映像製作関係という仕事からは違った職務ですが、自分の希望した映像製作関係の仕事に着けるよう頑張っています。

大学時代と社会人になって大きな違いは、目標をもってやっているということです。正直大学時代は具体的な目標を持った事がなかったのですが、今は現在やっている仕事の上での目標と将来やりたい仕事の目標をもって仕事をやっている、自分がスキルアップしているという実感があります。それと給料を貰っている、プロ意識を持って仕事をしているという事です。こういった意識を持っていないと自分のスキルアップには繋がらないと思うので、工作中は常に意識するように心掛けています。

あと、社会人になって率直に思った事は時間は有限であるということです。大学時代は余ほど時間があつたのに今は自分の時間がまったく無い状態なので、資格取得にもっとチャレンジしておけばよかったなと今となっては思います。そういった意味で時間に対する考え方が大学時代と大きく変わりました。

他大学出身者と比較して自分はどうかと言う点ですが、僕の場合は大学で勉強した内容と仕事の内容がまったく別のものなので、今の仕事の知識はまったくの 0 からのスタートだったのですが、他大学の同期の人たちもそれは同じだったので知識の差というのはまったくありませんでした。あとはやる気の差なので他大学の人に対して不安や心配などはまったくありません。

就職したばかりで、本格的な仕事はまだですが、自分の希望に沿った会社を見つけられたことは良かったと思います。

8. 卒業生 G さん

私は平成 18 年に九州産業大学情報科学部知能情報科学科を卒業し、現在東京の IT 系企業で働いています。IT 系といっても仕事は幅広くありますが、その中でもネットワーク系の構築を行っています。大学卒業後すぐに東

京に出てきて、4月3日に入社式があり、この前ちょうど3ヶ月間の研修が終わったばかりで、今はOJTが始まったところです。

まず3ヶ月間の研修について少し話しますと、会社でそれぞれ違うと思いますが私の過ごした研修期間というのは大学生活の延長線上のようなもので技術の講義と演習が主体でした。違うのは給料が出ているという点です。もちろん給料をもらっているので大学のように自由ではないし、しっかりやらなければならないことはやらないといけません。社会人として当然のことです。その研修の目的では、新入社員同士の技術レベルがバラバラであるため、一定基準を満たすというような趣旨で進められました。私の同期には、北は北海道から南は沖縄まで、学歴も専門学校から大学院までとPCをあまり使っていなかった文系の人と幅広くいます。もちろんその中には初めからとても高い技術力を持っている人も数人います。そうした中での研修は、とても有意義でした。同期同士で教えあうことによりお互いに成長することができるからです。他人と比べてしまうと自分が劣っている部分は数多くあると思いますが、それを自分の中でしっかり把握し、聞き、吸収していく。そうすることによりモチベーションを上げ、楽しく仕事をやっていくことができれば充実した毎日が送れると思います。

続いて、今やっていることですが、まだ直接的な仕事はほぼなく、先輩から課題をもらいそれを一つ一つこなしていくという形で日常業務を行っています。しかし、大学とは違った意味で実機に触れる機会も多いですし、自分の成長をはっきりと実感することもできます。もちろん大学時代で学んだことの多くも活かされ、特に基礎の部分というのはとても大事であると感じています。基礎がしっかりしていれば、仕事を覚えるのは格段に早いです。意味を理解して仕事を行うのと、ただ仕事をやるのとでは全く成長のスピードが違います。業界としてもスピードが早く、次々と新しいものや技術が出てくる中で、その早さに対応していくにはやはり基礎がしっかりしている人間の必要性をととも感じます。

最後に、東京に出てきてよかった点を一つ挙げたいと思います。それは時代の最先端を味わえることです。まだ市場に出ていない多くのものを扱うことができますし、それを作った人よりも詳しくなれたりします。これは自分の中でとてもモチベーションに繋がり、他では味わうことのできない感動です。今の気持ちを忘れず、これからも仕事を楽しんでやっていこうと思います。